

手ノ子地区

～ 私たちの暮らしとふるさとに魅力と誇りを創る ～

【2030年の将来像】

- ① 「小さな拠点」が機能して住みやすい「手ノ子」になる。
- ② 「手ノ子はとってもいいところ」という人が多くなる。
- ③ 「手ノ子牛」を提供する店が手ノ子にできる。
- ④ 手ノ子に人が増える。
- ⑤ 雪室を利用して高収益の農業ができる。
- ⑥ 部会活動がさらに充実している。



【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男228・女245 計473 世帯数168 集落数6 高齢化率42%

【現状と課題】

1. 最盛期には280戸あった世帯数が現在は170戸弱に減少した。高齢者世帯が多く、今後、世帯数減少が加速的に進むのではないかと懸念している。空き家対策と土地利活用推進が喫緊の課題。
2. 人口減、世帯数減に伴って、集落の組織と機能の劣化が懸念される。これを立て直す必要がある。有効な方法と思われるのが、小さな拠点整備と集落ネットワーク圏づくりだ。第一歩を踏み出したい。
3. 豪雪地であることから、冬期間の暗い雰囲気や雪始末の苦勞が多いなど、手ノ子に対するマイナスイメージをもっている人が多い。「雪」が有益な資源であることや「雪」が苦痛にならない住環境づくりなどの具体的な事例を提示し、手ノ子を安心して、誇りをもって暮らせる地域にする必要がある。
4. 子どもが少ない。主な理由は二つ、一つは若者の流出。もう一つは結婚難。Uターン、Iターンが進む環境づくりと若い男女の出会いづくり作戦が必要だ。
5. 近い将来、新潟山形南部連絡道路(新山道路)が整備される。米坂線開通と宇津トンネル開通が地域衰退の引き金になった手ノ子地区にとって新山道路は、三度目の地域衰退の原因になるのでは、と心配する。それを乗り越えるインフラ整備など地域振興策が求められる。
6. 里山が放置されていることから里山の樹木が住宅の間際にまで侵入している。里山荒廃が住環境悪化の原因になっている。景観を創る取り組みに加え、魅力ある住環境づくりも欠かせない施策だ。
7. 越後米沢街道の重要な宿場であった歴史の息遣いが、今もなお残っている。下田通りや落合通りに強く残っている。これを大切に歴史の息遣いが分かる手ノ子の街づくりを進めたい。
8. 国などから高い評価を受け、地域づくり大賞・総務大臣賞を受賞した、当協議会部会などの里づくり活動だが、ここに来て、これまでを再点検する時期に来たように思う。活動がマンネリ化していないか、という視点も欠かせないが、加えて、「地域の活性化」にどう寄与していくかという視点が特に必要だ。

【地区の資源・宝物】

- ① 手ノ子の(宿場町、農村としての)歴史と文化
- ② 手ノ子の集落(通り)とその周辺(田園、里山)の景観
- ③ 手ノ子区協議会(里づくり推進委員会・部会)の活動の蓄積

【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	地区の役割	行政の役割
他の地区と連携した「小さな拠点づくり・集落ネットワークプロジェクト」の立ち上げと整備	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	まちづくりセンターの支援
中山間地域の住環境改善と地域景観整備	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	まちづくりセンターの支援
手ノ子への魅力ある移住定住促進	委員会の設置と計画づくり	—
雪室整備に向けた組織づくり	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	担当課(情報提供など支援)
「手ノ子牛」を手ノ子で提供する環境整備	プロジェクトチームの結成	
4部会での5つの活動の推進と発展 (ヒメサユリの保存・繁殖・観光資源に活用する条件整備、雁沢川ホテルの里整備、八幡山桜の森整備、地域家庭料理提供事業、宇津峠と手ノ子宿場の歴史と文化発掘)	部会活動の実施	—

【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	実施時期	実施主体
1. 「小さな拠点」と「集落ネットワーク圏」整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区
地域の活力と地域住民の意欲の向上、組織力の強化を図るため、当地域に「集落ネットワーク圏」と「小さな拠点」の仕組みと機能を導入し、地域再生を図りたい。基礎集落を温存しながら、中心集落と各集落をネットワーク化し、失われた機能を補い合い、更に中心集落に多様な機能を育成し、集中させる。そのためには地区として、まず、プロジェクトチームを編成して、集落ネットワークの具体的な姿と小さな拠点に必要な機能などを取りまとめ、地区でできることを実践し、その上で、国、町の支援を導入していく。		
2. 中山間地域の住環境改善と地域景観整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区
①山際にある住宅地では里山が荒廃した(手入れが行き届かなくなった)ことによって樹木が宅地まで押し迫っている。生活(住)環境の悪化を改善するため、宅地周り周辺の里山整備を行う。 ②魅力ある地域の景観を創るため里山整備を行う。		
3. 定住促進住宅(子育て支援住宅)整備の実現に向けて	令和3～12年度	手ノ子区協議会・飯豊町
当地域の喫緊の課題である小学校の統廃合問題や若者の流出、結婚難による地域衰退を解決するため、区協議会は、Uターン者、Iターン者などにとって魅力ある受け皿となるよう空き家の利活用や中古住宅リフォーム等、住みよい環境づくりを図っていききたい。また、人口増・子ども増のため、町に対し、定住促進住宅(子育て支援住宅)の整備を継続して要請していく。		
4. 雪室整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区・飯豊町
多雪地である当地域にとって、雪のマイナスイメージを払拭するには、雪をエネルギーとして利用する「雪室」が必要である。冷房コストの極めて低い「雪室」の導入により、保管室ごとに温度・湿度管理、市場動向を見ながらの出荷管理が可能になり、農業者の高収益につながっていく。将来、地域高規格道路が整備されれば、生産者⇒雪室⇒消費地と、太いパイプがつくられることになる。そのためには、当面、農業者や農業関係者との懇談から始めていきたい。その上で、「雪室」整備に対し、国、町の支援を要請していく。		

5. 「手ノ子牛」を手ノ子で提供する環境整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会
米沢牛のルーツは手ノ子。手ノ子はかつて「手ノ子牛」の集散地であった。その手ノ子で「手ノ子牛」を提供する店をつくる取り組みを行う。		
6. 宇津峠(越後米沢街道)と手ノ子宿場の歴史と文化発掘	令和3～12年度	手ノ子区協議会(宇津峠部会)
宇津峠(越後米沢街道)と手ノ子宿場の歴史と文化は当地域の貴重な財産。新たな発掘と次代への継承に取り組むほか、「手ノ子」を潤いのある街並みにするためにこの財産を生かしていく。		
7. ヒメサユリの保護・育成事業	令和3～12年度	手ノ子スキー場活性化組合・手ノ子区協議会(スキー場部会)・飯豊町
手ノ子スキー場ゲレンデに自生しているヒメサユリ(環境省レッドデータ準絶滅危惧種)の保護と繁殖に取り組む。		
8. 雁沢川ホテルの里整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会(雁沢部会)
雁沢を維持管理する傍ら「ホテルの里づくり」を取り組んできた。今後は、ホテル観賞イベントなどソフト事業を導入するとともに、地域全体を「ホテルの里」にする取り組みを行う。		
9. 八幡山桜の森整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会(さんさん部会)
14haの元採草地にサクラなど花木を植栽して、八幡山が地域住民のよりどころとなるよう、里山づくりを継続するとともに、今後はさらに、観光客誘客のためにイベントなどを展開していく。		
10. 地域家庭料理提供事業	令和3～12年度	手ノ子区協議会(さんさん部会)
地域に昔からある郷土料理をレシピ化して次の時代に継承する取り組みを行ってきた。レシピ化したデータを基に郷土料理として普及するとともに商品化を目指す。		

【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
他の地区と連携した「小さな拠点づくり・集落ネットワークプロジェクト」の立ち上げと整備	手ノ子地区、高峰地区、状況によっては中津川地区	他地区と連携したプロジェクトチームを結成
中山間地域の住環境改善と地域景観整備	手ノ子地区、高峰地区	他地区と連携したプロジェクトチームを結成
雪室整備に向けた組織づくり	全域	他地区と連携したプロジェクトチームを結成

【土地利用の基本方針】

手ノ子は白川沿いに発達した河岸段丘の要に位置しています。かつてイザベラバードが「東洋のアルカディア」と賞讃した美しい田園を見渡すことができます。宿場町として栄えた手ノ子はその面影を残しているものの、地域全体が、人口減少、産業の衰退が進み、土地利用の荒廃が現われはじめました。さらに、新山道路の開通は、手ノ子に限っては、これらに拍車をかけるのではないかと心配されます。

そのような中で、小さな街を宿場の面影を残した街並みに再生することができるのではないかと考えております。また周囲の水田、畑地、森林(里山)は、その穏やかな景観を保全、修景し、心の

ふるさと、レクリエーションの場としての活用が期待されます。

一方で、荒廃空き家、荒廃宅地が目立ちはじめた集落環境を整備し、優れた住環境に再生する取り組みや「雪」に悩まされる居住環境の改善に取り組むことも忘れてはなりません。その再生と魅力増進に取り組みます。加えて、手ノ子での生活の利便性、快適性を確保するため、「小さな拠点づくり」を土地利用計画に位置付け、高峰地区とも連携し、行政と協働してその構想を進めていきます。

【土地利用ゾーニング】

